

THE NAGASAKI

長崎日英協会会報

# BUND



明治初期に出島の西端より江戸町・大波止・大黒町を撮影した写真である。

出島の石垣と江戸町護岸の間にある水路が、江戸時代から出島と本土を隔絶していた水路であり、その後、明治 18 年(1885)から始まる長崎港改修事業では出島側が掘削され、現在は中島川河口になる所である。

旧長崎県庁のあった丘の西側の沿岸部は、江戸時代以来埋め立てにより土地を拡大してきた場所である。従って、沿岸部は、写真のように石垣で護岸を形作っている。沿岸の中央付近に端正な石積み護岸があり、街灯が並んでいるが、ここが大波止である。

(写真:長崎大学附属図書館所蔵)

2024・5

27

### 第3回長崎ラグビーフェスティバルへ出席

2023年4月15日(土)、16日(日)に長崎市総合運動公園で開催された「第3回長崎ラグビーフェスティバル」に長崎日英協会の三井一明会長が出席しました。

4月16日(日)に行われた『長崎スコットランドカップ争奪戦 東福岡高校 VS 長崎県高校選抜』では、三井会長が勝者の東福岡高校へプレゼンターとしてスコットランドカップを授与しました。

このカップは、2019年のラグビーワールドカップ日本大会における長崎での事前キャンプを記念し、友好の証としてスコットランドラグビー協会から寄贈されたものです。

長崎の地でイギリス発祥であるラグビーの輪が、今後ますます広がることを期待しています。



### 2023年度理事会・通常総会・講演会開催

2023年6月21日(水)、ANAクラウンプラザホテル長崎グラバーヒルで、2023年度長崎日英協会理事会・通常総会を開催いたしました。総会には約25名の会員の方にご出席いただき、2022年度の事業・決算報告及び2023年度の事業計画・予算等が審議承認されました。

総会終了後は、国立長崎原爆死没者追悼平和祈念館の館長で、長崎スコットランド交流塾塾長の高比良則安氏に



高比良 則安 氏

『長崎スコットランド交流塾の活動』と題して講演をいただきました。

2019年のラグビーワールドカップ日本大会で、スコットランド代表チームのキャンプ地を長崎市に誘致する活動をきっかけに、公私ともにスコットランドとの交流を深める高比良氏は2022年、長崎伝習所の同塾を主宰。元ラグビースコットランド代表のグレイグ・レイドロウ選手を迎えたトークイベントを企画し開催するなど、積極的に活動を続けられています。

### 第44回グラバー顕彰式に出席

2023年9月16日(土)、グラバー園において、長崎市主催の「第44回グラバー顕彰式」が執り行われました。

式典ではスコットランド出身の商人で、わが国の近代化と長崎の経済発展に大きな役割を果たしたトーマス・ブレイク・グラバー氏の功績を称え、鈴木史朗長崎市長をはじめ、英国と親交のある団体の代表者が献花を行いました。

当協会からは三井会長と中尾事務局長が出席しました。

また、旧スチール記念学校1階で開催された『長崎とスコットランドの交流の歴史展』では、当協会とスコットランドとの交流について紹介がありました。



## 第 32 回長崎県高等学校英語スピーチコンテストに後援

2023年10月1日(日)に長崎県立西陵高等学校で開催された英語スピーチコンテストには県内各地より18名の参加がありました。

準優勝の戸村 楓さんは、『これまでに感じたことや経験したことをもとに、平和教育とはどうあるべきなのか、また私たちはどうするべきなのか、じっくり考える機会ができました。平和教育について語った上で、私が生み出す理想的な平和教育も考えることができたなら、また違った印象を与えたかと思いました。』

3位の只熊 莉奈さんは、『尊敬する先生の死を通して最後まで生き抜くという命の尊さと自分一人の命ではないことを教えてもらい、特に後者を重点に、伝わりやすい原稿を考えることに苦労しました。』とそれぞれ感想をいただきました。

### 【審査結果】

《第1部》 1位 寺尾 みさき さん (長崎日大高等学校 1年)  
2位 戸村 楓 さん (活水高等学校 2年)  
3位 只熊 莉奈 さん (諫早高等学校 2年)

《第2部》 1位 完山 シエナ さん (聖和女子高等学校 1年)



## 第 17 回長崎県高等学校 英語ディベート大会に後援

2023年10月14日(土)に長崎県立佐世保北高等学校で開催された当大会は、県内4校5チームの25名の参加を得て、活発で充実した英語学習の機会となりました。

【審査結果】 1位 佐世保北高等学校 A  
2位 佐世保北高等学校 B



### 《大会生徒感想》

「日本政府は代理出産を合法化すべきか」という難しい議題を英語で討論するということで、自分たちの論をいかに強められるかを考え言葉にすることはとても難しいことでした。しかし、毎日の練習を通して日々成長している自分を感じられる喜びが大きく、ディベートをしてよかったと何度も思いました。いつも心の支えとなってくれる家族や先生、仲間たちへの感謝を胸に上位大会でもよい成績を残せるよう全力を尽くします。(佐世保北高2年生)

## ながさき異文化ちゃんぽんフェスタにブース出展

2024年1月20日(土)、長崎ブリックホールにて長崎市主催の『ながさき異文化ちゃんぽんフェスタ』が開催されました。このイベントは、市内で活動する国際交流団体や留学生が、海外の民族音楽や踊りの披露、団体の活動紹介や楽器の演奏体験など、様々な国の文化を体験できるものです。

ブースを回るスタンプラリーもあります。

『長崎日英協会』のブースは、英国の文化についてパネル展示で紹介し、訪れた人たちにお菓子のプレゼントや英国に関するクイズを出題しました。

子どもたちの来場が多く、クイズに正解すると笑顔になったり、お菓子の前ではどれを選ぶか悩んだり終始賑やかな声が会場に広がっていました。



## 第11回活水女子大学 エリザベス・ラッセル杯英語スピーチコンテストに後援

活水大学は2014年度より国連アカデミックインパクトに参加し、国連が掲げる10原則のうち6原則の普及に努めています。『グローバル社会の一員として考える』をテーマに、本学が取り組んでいる6原則の内容に沿うスピーチの募集をしました。

2023年11月23日(木)に4年ぶりの対面開催となった当コンテストは、日本の各地から若者たちが結集し、相互交流の中で切磋琢磨していくことの重要性を再認識できたコンテストになりました。

### 第1位 <sup>すみだ あいり</sup> 住田 愛里 山陽小野田市立山口東京理科大学薬学部薬学科1年 【 Education and Biological Sexuality 】

住田さんは女性の生理を経済的、社会的観点から検証し、性教育でもっと取り上げるべきであると論じました。アフリカでは、生理用ナプキンが買えないため、学校を休まざる負えない少女が多くおり、なかなか声をあげにくい状況になっています。

日本でも「汚物入れ」などという表現が使われているため、生理に対して「恥ずかしいもの・隠すべきもの」という態度が根付いてしまい、これが男性の生理の対する無理解にも繋がっていると指摘します。男性の中には生理用パッドは1日1回取り換えればよいのではないかと考えている人がおり、性教育を通じて生理の現実を知る必要があることを淡々と訴えました。独自の視点から問題に切り込み、理路整然と演説する姿が印象的でした。



### 第2位 <sup>むらお きょうか</sup> 村尾 京香 筑紫女学園大学文学部英語学科1年 【 People with Foreign Roots, Including Half and Diversity 】

村尾さんはハーフの人と知り合いになり、その人を通じて、いかに自分が多文化社会で育った人たちの苦悩や苦勞に無自覚であることを学びました。その友人と会った時、最初留学生だと思ったが、実は日本人であったことや、顔立ちからして英語を流暢に話せそうだが、英語をほとんど話せないことを知り、自分が抱くステレオタイプと向き合う機会となったそうです。又、家庭の言語環境によって母語であるはずの日本語の読み書きが遅れてしまうなど多言語・多文化環境で育った子供たちが抱える問題についても意識するようになったとのこと。ご自身の体験を、笑顔を交えながら和やかに話していました。

### 第3位 <sup>まるやま たいき</sup> 丸山 泰熙 東京大学理科二類1年 【 Don't Say Geez to the SDGs 】

環境に配慮し、持続可能な社会を目指してゆくことは大切です。しかし、多くの方はSDGsに対して無関心で、その目標実現のために生活水準を下げなければならないと思うと、つい背を向けがちになってしまいます。丸山さんは東京大学で取り組んでいるU-Tokyo Sustainability Networkの活動について紹介し、他の大学や自治体でもそのようなNetworkを作るよう奨励しました。落ち着いた口調と知的なルックスで、聴衆に訴える姿が印象的でした。

(活水女子大学国際文化学部英語学科教授 狩野 暁洋)



## 『クリスマス夜会2023』開催



長崎日米協会 森会長



在福岡米国領事館  
チャンカー・ラオ 領事

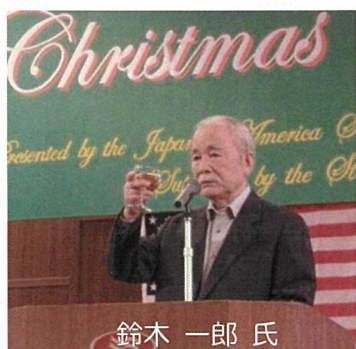


長崎日英協会 三井会長

2023年12月7日(木)、ANAクラウンプラザホテル長崎グラバーヒルで「長崎日米協会・長崎日英協会合同クリスマス夜会2023」を開催いたしました。

今年は4年ぶりの立食形式で、来賓のチャンカー・ラオ在福岡米国領事を始めALTやCIR、留学生の皆さんを含む約80名の皆様にご参加をいただき国際色豊かなパーティーとなりました。

会は、森拓二郎長崎日米協会会長の挨拶で開会、チャンカー・ラオ氏の来賓挨拶に続き、鈴木一郎長崎日米・日英両協会顧問に乾杯のご発声をいただきました。



鈴木 一郎 氏



活水女子大学 ハンドベル部



会場の様子

終始和やかな雰囲気の中、活水女子大学ハンドベル部によるクリスマスソングの演奏や毎年恒例のプレゼント抽選会も行われ、会場は大いに盛り上がりました。

楽しいひとときとなった一足早いクリスマスは三井一明長崎日英協会会長の挨拶で終演となりました。

### 新規会員募集中!

長崎日英協会では新規入会の会員を募集中です。会員の皆さま方の中でご紹介いただける方がいらっしゃいましたら是非ともご加入をお奨めいただきますようよろしくお願いいたします。

年会費 法人会員 10,000円 個人会員 5,000円

# グラバー園 開園 50 周年

1974年の開園以来、多くの皆さまに愛されてきたグラバー園は2024年開園50周年を迎えます

1858年(安政5)、江戸幕府は、アメリカ・オランダ・ロシア・イギリス・フランスの5カ国と修好通商条約を締結。

世界中から夢を抱いた大勢の外国人商人が長崎へ押し寄せました。

1641年(寛永元)から218年間、海外との交易を司る出島オランダ商館の時代は幕を閉じ、開港都市長崎へと変貌を遂げました。

かつて、長崎港を見渡す丘陵地には日本瓦に覆われた洋風建築が建ち並び「外国人居留地」としての日々の営みがありました。



旧グラバー住宅



旧オルト住宅

グラバー園では、9棟の伝統的建造物を見ることができます。

旧グラバー住宅、旧オルト住宅、旧リンガー住宅は居留地時に建築され、150年以上、この土地に現存する貴重な建物です。

これら3棟は国指定重要文化財に指定され、旧グラバー住宅は「明治日本の産業革命遺産」の構成資産にも登録されています。他6棟は明治中期頃に長崎市内に建てられた洋風建築を移築復元したもので、各建物に当時を思わせる特徴があり、明治時代の長崎を知る上で貴重な建物です。

## ～ グラバー園のあゆみ ～

1863年(文久3)	南山手3番地にグラバー邸建設
1939年(昭和14)	グラバーの息子、倉場富三郎がグラバー邸を三菱長崎造船所に売却
1957年(昭和32)	三菱長崎造船所が創業100周年記念事業でグラバー邸を長崎市に寄贈
1958年(昭和33)	長崎市がグラバー邸を一般公開
1965年(昭和40)	長崎市が旧リンガー住宅を購入し翌年一般公開
1966年(昭和41)	旧グラバー住宅の修復工事はじまる、翌年工事完了
1970年(昭和45)	長崎市が「長崎明治村」構想を発表／長崎市が旧オルト住宅を購入
1971年(昭和46)	グラバー邸地区観光施設整備第1期工事完了
1972年(昭和47)	三菱長崎造船所、第2ドックハウスを長崎市に寄贈、移築 海星学校、旧スタイル記念学校を長崎市に寄贈



旧リンガー住宅



旧ウォーカー住宅

1973年(昭和48)	長崎市が馬町の旧自由亭を購入し翌年移築
1974年(昭和49)	南山手の旧ウォーカー住宅と東山手の旧スタイル記念学校を移築／グラバー邸地区 観光施設整備第2期工事完了／名称を公募、「グラバー園」に
1975年(昭和50)	長崎市が片淵の旧長崎高等商業学校表門守衛所を購入し翌年移築
1977年(昭和52)	旧オルト住宅の修復工事はじまる／長崎市が万才町の旧長崎地方裁判所長官舎を購入し2年後に移築
1979年(昭和54)	旧オルト住宅の修復工事が終わり一般公開
1981年(昭和56)	長崎伝統芸能館オープン
1990年(平成2)	長崎市が「伝統的建造物群保存地区保存条例」公布
1991年(平成3)	東山手と南山手が国の「重要伝統的建造物群保存地区」に選ばれる
1996年(平成8)	イタリアのルッカ県とマダムバタフライ・コンクール協会がジャコモ・プッチーニ像をグラバー園に寄贈
2009年(平成21)	旧グラバー住宅が「九州・山口近代化産業遺産群」と題する世界遺産候補の構成資産に選ばれる
2015年(平成27)	世界遺産「明治日本の産業革命遺産 製鉄・製鋼、造船、石炭産業」の構成資産として登録される



南山手秘話  
Secret Stories of Minamiyate

グラバー園ホームページ内にある南山手秘話ではグラバーやグラバー園に限らず、南山手の様々な人物やエピソードを紹介しています。ぜひこの機会にご一読いただき、長崎を代表する観光地となって半世紀のグラバー園で、かつての長崎を改めて感じていただきたいと思います。

グラバー園公式ホームページ  
<https://glover-garden.jp/>



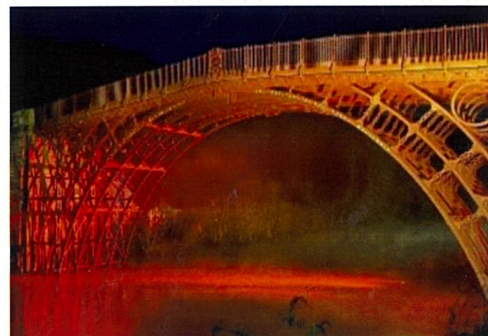
資料提供 グラバー園

# こんにちは！ギャビーです！



こんにちは！

私の名前はガブリエル・ミラードです。みんなからはギャビーと呼ばれています。出身はイギリスのシュロップシャーです。私の故郷シュルーズベリーはリバプールとバーミンガムの間に位置し、チャールズ・ダーウィンの生誕の地として有名で、私が育った町テルフォードには世界初の鑄鉄で作られた有名な橋「アイアンブリッジ」があります。



私は2022年に長崎に移住し、長崎市内の3校で ALT として毎日楽しく仕事をしています。生徒たちはとても楽しく、英語を学ぶことに熱心で外国人教師との交流を楽しんでおり、教科書では決して学べない日本文化の側面についても常に私に教えようとしてくれます。

私は幼い頃から日本に興味があり、日本で ALT の経験があった中学校時代の恩師の影響で、大学ではアジア太平洋研究と日本語を学びました。アジア太平洋研究は現在イギリスで非常に人気のある専攻であり、出身大学の UCLAN(セントラル・ランカシャー大学)でイギリスと日本の関係を結び付けるイベントを開催していることは非常にラッキーでした。大学時代に主催した文化祭では、日英大使館のゲストスピーカーや太鼓の演奏、書道や着物の着付けの体験など、英国の学生や一般の人々がとても楽しい経験をしました。



私は大学生の頃からチアリーディングの競技

に参加しています。現在も長崎ドラゴンズとトレーニングを楽しんでいます。もともとチアリーディングが好きで、日本のチアリーディングにずっと興味がありました。

イギリスでは、トレーニングルーチンが非常に厳しいのですが、日本ではさまざまなスキルレベルに非常に柔軟に対応できることがわかりました。私はチームメンバーで唯一の外国人なので、最初はとても緊張しましたが、チームメイトとたくさんの素晴らしい思い出を作り、日本のチアリーディングについて多くのことを学んでいます。

特に私が楽しんでいるのは、毎年諫早市で開催される「ながさき応援フェス」です。

イングランドと比べて、各チームのサポートやスポーツマンシップはとても愛情深く、チーム間の関係も非常に緊密です。その一員としてたくさんの良い友達ができ、日本のチアリーディングの一員になれたことはとても幸せです。

2016年の初来日で東京、京都、大阪を訪れた時は日本語を全く知らず、とても緊張しましたが日本語を教えてくれるたくさんの素敵な地元の人々に出会ったので、大学でも日本語を勉強し続けたいと思うようになりました。新型コロナウイルス感染症の影響で残念ながら留学はできず、長崎市に移住して初めての九州体験となりました。長崎の友人の多くは、長崎を「田舎」だと言いますが、私にとっては故郷を思い出させます。イギリスには小さな都市がたくさんあります。長崎市は比較的大きいですが、移動がとても簡単です。2024年に来崎した父も同じ印象を持ち、「長崎は一生住みたい場所」だと言っていました。

長崎の人々はとても優しく、重要な歴史がたくさんあり、平和学習の教育が世代を超えて大切にされています。

日本に移住して2年が経ちましたが、この美しい県の歴史について知ることができてとても楽しいです。これからもっと学び続け、英国と日本の関係を築くことを楽しんでいきたいと思っています。ここに永遠に住めたらいいのに！

編集・発行 長崎日英協会 (株式会社長崎経済研究所内)

住所 〒850-8618 長崎市銅座町1番11号 十八親和銀行本店内

担当者 中尾・柄本・宅島

TEL:095-828-8859 FAX:095-821-0214